



手段的日常生活動作 (IADL) 評価指標のご紹介

LawtonのIADL評価尺度

FAQ



監修

神戸大学大学院保健学研究科 教授

古和 久朋 先生

認知症診療における私たちの使命は、ご本人・ご家族が住み慣れた生活環境で、今までと同じように生活していけるよう支えていくことだと考えます。このことを実現するためには日々の生活を送るのに必要な能力、すなわち日常生活動作 (ADL) の評価は欠かせません。特に認知症の早期においては、手段的日常生活動作 (IADL) に着目することで軽度認知障害 (MCI) などの診断のみならず、治療開始後の効果判定という側面においても非常に重要な指標となります。

ここでは、IADLを評価する上で参考になる指標として、「LawtonのIADL評価尺度」と「FAQ (Functional Activities Questionnaire)」をご紹介します。本内容が先生方の臨床現場においてお役に立てば幸いです。

手段的日常生活動作(IADL)評価指標のご紹介

手段的日常生活動作(IADL)とは、日常生活動作(Activities of Daily Living:ADL)の中でもより高次のADLで、買い物、掃除・洗濯、金銭管理など社会的活動に必要な生活動作です¹⁾。

IADLは、認知症やアルツハイマー病(AD)の早期から障害されるといわれており^{1,2)}、早期AD診断では重症度を判断する指標としてIADLを確認する必要があると考えます。また、治療においてもIADLに着目して効果判定をすることが重要です²⁾。さらに、ADによる軽度認知障害(MCI)や軽度の認知症に対する抗A β 抗体療法が登場してきた現在では、IADLを評価する意義がさらに高まっていると感じます。

本冊子では、いくつかあるIADL評価指標の中から、「LawtonのIADL評価尺度」と「FAQ(Functional Activities Questionnaire)」についてご紹介いたします。

1) 上田諭編: 認知症はこう診る(医学書院)2017;p26, 115

2) 中島健二ほか編: 認知症ハンドブック第2版(医学書院)2020;p528-529, 549-550

LawtonのIADL評価尺度

LawtonのIADL評価尺度は、高齢者のIADLを評価するための指標として1969年にM. Powell Lawtonらによって開発されました³⁾。診断時におけるIADLの客観的な評価判断や、治療効果の判定によって治療目的や方針の策定に役立てられます³⁾。

方 法

被検者および家族などの情報提供者に対して、被検者が女性の場合は8項目、男性の場合は「食事の準備」「家事」「洗濯」を除いた5項目について、どの程度自分の力でできるか質問を行います(表1)³⁾。

採 点

8項目(0~8点)または5項目(0~5点)の合計点数が高いほどIADLが維持されていることを示します^{3,4)}。

備 考

- 現在では、男性についても8項目で評価を行うことが推奨されています⁴⁾。
- 医師だけでなく、看護師や臨床心理士など幅広い医療関係者が使用できるように設計されています³⁾。

3) Lawton MP, et al.: Gerontologist 1969; 9(3):179-186

4) 日本老年医学会: 高齢者診療におけるお役立ちツール Lawtonの尺度
https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/tool/pdf/tool_13.pdf(2024年10月24日閲覧) より作成

表1 LawtonのIADL評価尺度

項目	スコア
A. 電話	
1. 自分で番号を調べて電話をかけられる	1
2. いくつかのよく知っている番号であれば電話をかけられる	1
3. 電話をかけられないが、電話に出ることはできる	1
4. 全く電話が使えない	0
B. 買い物	
1. (金額にかかわらず)自分で買い物ができる	1
2. 少額であれば買い物ができる	0
3. 同伴者がいれば買い物ができる	0
4. 全く買い物ができない	0
C. 食事の準備	
1. 自分で計画を立てて食事を準備できる	1
2. 材料が用意されていれば食事を準備できる	0
3. 食事を温めることはできる／食事を準備するが上手くいく時とそうでない時がある	0
4. 自分では食事を準備できない	0
D. 家事	
1. 自分で家事ができる(力仕事は除いてもよい)	1
2. 簡単な家事(皿洗いやベッドの支度など)であれば自分でできる	1
3. 簡単な家事であれば自分でできるが、清潔さを維持できない	1
4. 手伝いがあれば家事ができる	1
5. (手伝いがあっても)全く家事ができない	0
E. 洗濯	
1. 自分で洗濯ができる	1
2. 小物(靴下、ストッキングなど)であれば自分で洗濯できる	1
3. 自分では洗濯ができない	0
F. 公共交通機関の利用	
1. 1人で公共交通機関を利用できる／自家用車で外出できる	1
2. タクシーは1人で利用できるが、それ以外の公共交通機関は1人で利用できない	1
3. 同伴者がいれば公共交通機関を利用できる	1
4. 同伴者がいればタクシーまたは自家用車で外出できる	0
5. 全く外出できない	0
G. 服薬管理	
1. 自分で正しい時間に正しい量の薬を服用できる	1
2. 薬が仕分けされていれば自分で服用できる	0
3. 自分では服薬管理ができない	0
H. 金銭管理	
1. 自分で金銭管理ができる(お金の計算をする、支払いをする、銀行に行く等)	1
2. 日常の支払いはできるが、預金の出し入れや高額の買い物では手伝いが必要	1
3. 自分では金銭管理ができない	0

3) Lawton MP, et al.: Gerontologist 1969; 9(3): 179-186 より作成

Translated and reproduced by permission of Oxford University Press on behalf of the Gerontological Society of America. OUP and the Gerontological Society of America are not responsible or in any way liable for the accuracy of the translation. The Licensee is solely responsible for the translation in this publication/reprint.

FAQ(Functional Activities Questionnaire)

FAQは、認知症患者のIADLを評価するための指標として1982年にR. I. Pfefferらによって開発されました⁵⁾。診断、治療の効果判定や、治療による生活への改善効果の確認に役立てられます⁵⁾。

方 法

家族などの情報提供者に対して、10項目の質問を行います(表2)⁵⁾。

採 点

依存=3、援助が必要=2、自分でできるが困難さがある=1、正常=0として合計点数を算出します(0～30点)⁵⁾。合計点数が低いほどIADLが維持されていることを示します⁵⁾。9点以上(3つ以上の活動で依存)の場合は、認知機能障害の可能性があるとされています⁶⁾。

備 考

- 検査実施者に依存せず、さまざまなタイプの認知症で一貫した結果が得られることが示されています⁶⁾。
- 直接的な観察が欠けているため、過小・過大評価の可能性のある点に注意が必要です⁶⁾。

5) Pfeffer RI, et al.: J Gerontol 1982; 37(3): 323-329

6) Alzheimer's Association: Use of the Functional Activities Questionnaire in Older Adults with Dementia. Issue Number D13, Revised 2016. <https://alz.org/media/documents/functional-activities-questionnaire.pdf>(2024年10月24日閲覧) より作成

表2 FAQ

1	小切手の記入、請求書の支払い、家計簿の管理
2	税金記録の整理、ビジネスに関する書類の整理
3	衣類、生活必需品、食料品などの買い物
4	スキルを要するゲームのプレイ、趣味の活動
5	お湯を沸かす、コーヒーを入れる、コンロを消す
6	バランスの取れた食事の準備
7	最新のニュースや出来事の把握
8	テレビ番組、本、雑誌に注意を払い、理解し話し合う
9	約束、家族の行事・祝日、服薬の記憶
10	遠方に出かける(自家用車を運転する、バスを利用する)

5) Pfeffer RI, et al.: J Gerontol 1982; 37(3): 323-329 より作成

Translated and reproduced by permission of Oxford University Press on behalf of the Gerontological Society of America. OUP and the Gerontological Society of America are not responsible or in any way liable for the accuracy of the translation. The Licensee is solely responsible for the translation in this publication/reprint.